

瀬戸内圏研究センターと庵治マリンステーションの組織体制

瀬戸内圏研究センターは、香川大学研究推進機構の一組織として、平成21年3月1日に設立された。また、同年4月1日には農学部附属浅海域環境実験実習施設を庵治マリンステーション (Aji Marine Station) として改組し、同センター内に設置した。本研究センターの組織体制を以下に示す。

また、瀬戸内圏に関する情報のデータベース化を図るために香川大学瀬戸内圏研究センター情報拠点機能強化推進事業 (香川県ふるさと雇用再生特別基金事業) によるデータ・マネジメント・ステーションが平成21年7月21日から始動した。

研究推進機構長	板野俊文 (平成25年3月まで) (平成25年3月 研究推進機構を廃止)
理事 (総務・研究担当)	板野俊文 (平成25年4月～9月)
理事・副学長 (研究担当)	早川 茂 (平成25年10月から)
瀬戸内圏研究センター	
ゼネラルマネージャー	本城凡夫 (平成25年4月から)
センター長	本城凡夫 (平成25年3月まで) 多田邦尚 (平成25年4月から)
(特任教授)	
副センター長	多田邦尚 (平成25年3月まで) (農学部併任) (平成25年4月以降は不在)
特任教授	原 量宏
准教授	一見和彦
コーディネーター	上野哲夫 (平成25年8月から)
庵治マリンステーション	
ステーション長	多田邦尚 (農学部併任)
技術専門職員 (船長)	岸本浩二
データ・マネジメント・ステーション	
技術補佐員	青木昌子
技術補佐員	美馬加奈子 (平成24年6月まで)

庵治マリンステーション の紹介

本施設は四国最北端である庵治半島の先端に位置します。周辺には砂浜や岩場などが多く見られ、自然環境に恵まれています。調査船「カラヌスⅢ」(19 t) 及び小型作業船「ノープリウスⅡ」(1.1 t) が配備され、香川大学の海に関する教育研究の前線基地となっています。調査船で海洋観測を行い、施設で分析・観察を行っています。研究用機器として、各種海洋観測機器および全窒素・リンなどの栄養塩自動分析装置が備えられ、海の富栄養化、貧酸素水塊、養殖漁場環境、あるいは干潟域の環境等の研

究を行っています。また、農学部の海洋環境実習、全学共通科目の授業にも活用されています。

瀬戸内圏研究センターへの改組に伴って、平成22年3月までに、マリンステーションの施設をリニューアルしました。

(庵治マリンステーションの位置地図)



庵治マリンステーション全景



調査艇「カラヌスⅢ」

